

## 防災訓練実施結果報告書の要旨

○玄海原子力発電所における総合訓練（複数の訓練を組み合わせて行う訓練）

|              |   |
|--------------|---|
| 訓練実施日        | 2019年12月6日  |
| 参加人数         | 546名（協力会社130名、他電力7名を含む）   |
| 想定した原子力災害の概要 | <p>○1号機は廃止措置段階、2号機は定期検査中に全交流動力電源が喪失。</p> <p>○3号機で原子力災害対策特別措置法第10条事象、4号機で原子力災害対策特別措置法第15条事象に至る原子力災害を想定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3,4号機は、定格熱出力一定運転中に、地震発生により、原子炉が自動停止し、その後、外部電源を喪失。</li> <li>・3号機は、使用済燃料ピット水の漏えいが発生。</li> <li>・4号機は、原子炉冷却材の漏えいが発生、その後、全交流動力電源喪失等により、原子炉の冷却機能を喪失。</li> </ul>   |
| 訓練の内容        | <p>以下の項目を「シナリオ非提示」にて実施</p> <p><b>【玄海原子力発電所】</b></p> <p>(1) アグジメントマネジメント (AM) 訓練<br/> (2) 緊急時対応訓練<br/> (3) 通報訓練<br/> (4) モニタリング訓練<br/> (5) 避難誘導訓練<br/> (6) 原子力災害医療訓練<br/> (7) 原子力防災要員等の動員訓練<br/> (8) オフサイトセンター連携訓練<br/> (9) 火災対応訓練</p> <p><b>【本店即応センター】</b></p> <p>(1) 通報訓練<br/> (2) 緊急事態支援組織対応訓練<br/> (3) モニタリング訓練<br/> (4) E R C (原子力規制庁緊急時対応センター)との連携訓練<br/> (5) 原子力防災要員等の動員訓練<br/> (6) 原子力事業者間協力協定に基づく支援連携訓練<br/> (7) 発電所支援対応訓練<br/> (8) プレス対応訓練<br/> (9) 住民避難支援対応訓練</p> <p><b>【後方支援拠点】</b></p> <p>(1) 設置・運営訓練 (2) 発電所支援に係る本店即応センターとの連携訓練</p>  |
| 訓練の評価        | <p>○今年度の訓練テーマ「E R Cへの円滑な情報発信のための体制及び運用の習熟」について、今後に向けた課題が抽出されたものの、速やかに要因及び今後の改善点を検討することができており、防災対応能力の継続的な改善が図られていることを確認。</p> <p>○発電所、本店、後方支援拠点及び各支社が連携し、原子力災害発生時に原子力防災組織及び本店原子力防災組織があらかじめ定められた機能を有効に発揮できることを確認。</p> <p>○昨年度訓練の主な改善項目への対応状況は、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告内容の基本項目等を記載した「発話ポイント」について、複数号機同時に事象が起り錯綜する場面での状況報告例など、更なる記載の充実について検討した。<br/> ⇒「複数同時に同じような事象で錯綜する場合での号機の報告」を明確に発話することとした。今回の訓練で、作成した発話の例を活用した報告ができており、本店即応センター内及びE R C対応ブースへの情報提供能力が向上し、確実な共有を行うことができた。</li> <li>・E R C対応ブースをサポートするための本店即応センター内体制・情報共有の伝達方法（付箋、メモによる情報共有）など、要領等への明記について検討した。<br/> ⇒要領に「E R C対応ブースの支援方法（連絡メモによる発話者への情報伝達、役割分担）」を明記した。明記した支援方法に応じた発話者サポートができており、本店即応センター内及びE R C対応ブースへの情報提供能力が向上し、確実な共有を行うことができた。</li> </ul> |
| 今後に向けた改善点等   | <p>○更なる情報共有の充実を図る観点から、今後の訓練に反映する主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・E R Cに対し、プラント状況説明の役割を担っている発話者がE R Cからの質問を抱え込み、プラント状況等の報告に支障をきたす場面があったため、発話者の役割分担を見直す。</li> <li>・発電所が優先的に行っている戦略に向けた対策が容易に把握できるように「設備状況・戦略シート」を見直す。</li> </ul>  |

○玄海原子力発電所における要素訓練（作業手順の習熟を図る個々の訓練）

・対象期間：2019年9月1日～2020年1月31日

| 項目               | 実施日                 | 参加人数 | 訓練の概要  | 今後に向けた改善点  |
|------------------|---------------------|------|--|--|
| 緊急事態支援組織<br>対応訓練 | 2019年<br>9月25日、26日  | 5名   | ○発電所において原災法第10条<br>事象が発生したことを想定し、<br>原子力緊急事態支援組織への<br>支援要請及び遠隔操作資機材の<br>操作訓練を実施し操作技能の<br>習熟を図る。  | ・なし<br>〔今後も、訓練において状<br>況を確認し、更なる改善<br>を検討していく。〕                                  |
| 原子力災害<br>医療訓練    | 2019年<br>10月31日     | 20名  | ○管理区域内で負傷者が発生した<br>ことを想定し、負傷者の搬送、<br>汚染の除去、応急措置等の訓練<br>を行う。  | 同 上  |
| 通報訓練             | 2019年<br>11月8日      | 48名  | ○通報連絡要否判断、通報連絡文<br>の確実な作成及び社内外関係<br>箇所へ迅速かつ確実な通報連絡<br>ができることを確認する。<br><br>○玄海2号機について、新規制<br>基準未適合炉として、現状の<br>設備状態で適用されるEAL<br>及び現在使用できる設備を認識<br>した対応ができることを確認<br>する。 | 同 上  |
| AM<br>訓練         | 2019年<br>11月11日、12日 | 58名  | ○アクシデントマネジメントガイ<br>ドラインを用いた事象進展<br>防止、影響緩和措置の判断・<br>選択が適切に行われることを<br>確認する。   | 同 上  |
| モニタ<br>リング<br>訓練 | 2019年<br>11月22日     | 21名  | ○緊急時モニタリング（放射性物<br>質濃度、放射線量の測定等）に<br>係る対応能力の向上を図る。   | 同 上  |
| 避難誘<br>導訓練       | 2020年<br>1月20日      | 15名  | ○見学者来訪時に緊急事態が発生<br>したことを想定し、関係者への<br>迅速な連絡及び避難誘導ができ<br>ることを確認する。   | ・避難誘導者から口頭により<br>避難を周知していたが、<br>プレーヤの意識を高める<br>ため、ページング及び所内<br>放送を実働として実施<br>する。 |